

団長の独り言

9月25日(日)「時間を有効に使う会」

それにしても月日の流れってのは、歳をとればとるほど早く感じる。

長く生きていくと誰もが通る感覚だから仕方ないけれど、寂しいというか空しいというか、焦るといふか…若い頃の1時間と、還暦を迎える今の私の1時間では、同じ1時間でも価値が違うよね。

そんな事を考えながらフツと中学校の頃の自分を思い出す。

私は中学3年生の時、「時間を有効に使う会」なるものを結成し、何かにつけ「時間がもったいない」「時間がもったいない」が口癖で、とてもせっかちな奴だった。

だからと言って、じゃー本当に時間を有効に使っていたのか?と云えば、そんな記憶は全然ない。

ただぼーっとはしていなかったかな?

(でも勉強はまるでダメな奴でした。)

その「時間を有効に使う会」を結成したのは、母親が蒸発して、弟と親父が愛知県に行ってしまう、私一人で香里団地に残り、借金取りの電話に怯えながら生きていたあの頃あたりだったと思う。

あの当時は、「こんな事で負けへん!」

「ちゃんとせなあかん!」と自分にいい聞かせ、自炊をして、弁当も自分で作って、ラッキーボクサーで買っただけの物もして、歯を

食いしばって生きていた。

もしあの時、「時間を有効に使う会」を結成せずに、「もうどうでもええわ」ってやけくそになっていたら、貴重な人生の時間を無駄にして、私は転げ落ちた人生を過ごす事になっていたと思う。

でもそこで踏ん張れたのは、父親を悲しませたくない!って想いと、3年5組の仲のいい数名の仲間達との何気ない充実した日常を大切にしていたのと、あとは、「一人で晩御飯を食べるのは寂しいから」と、クラスは違うが親しくしていた水田が、しょっちゅう家(うち)に来て、

晩御飯の時間を共にしてくれていたのもドロップアウトしなかった理由だと思ふ。(水田は、自分の家で晩御飯を食べて、自転車ですら15分程の家に来てくれた。)

ちなみに「時間を有効に使う会」の会員は私一人で、当時の友人達は、私が「時間を有効に使う会」の会長だった事は知らなかったんじゃないかな?(多分…)

そんな性分でこれまでできたものだから、この年齢になり、時間の過ぎ去るスピードが増すにつれ、「貴重な時間を無駄にしたくない!」って思いも一層増してきて、時間の流れの速さに焦るのを通り越して、寂しさすら覚える今日この頃。

だからこそより時間も有効に使うべく、金曜の夜は受付会議をリモートで行った。今回の公演は平日のみの公演なので、いつも多くの方が参加して下さる「受付ボランティアスタッフ」の方が、とても少なく

て苦しい状況となっている。

それでも目のご不自由なお客様も多くお越しになる劇団ふぁんハウスでは、気持ちよく観劇してもらおうべく、万全の体制でお迎えせねばならない。

そこで望月リーダーを中心に、3時間にも及ぶ受付リモート会議を行い、時に激しく意見を出し合いながら、なんとか道筋が見えるまでになった。

その会議を経ての昨日今日の稽古では、いよいよ13時から21時30分までの昼夜連続稽古の時期となり、まず稽古開始前、「音声ガイド」を行う際のラジオの受信状況を出演者全員でチェック。

前回公演では「音声ガイド」を行うにあたり、FM送信機の調子が思わしくなくて、仕方がないので、業者さんから送信機と専用の受信機数台をお借りして音声ガイドを行った。(お試しという事で、サービスでお借り出来た!)

結果は、そりゃーもうとってもクリアーな音質で、いう事なしだった。

ただ今回もその送信機&受信機をお借りするとすると、さすがにサービスってわけにはいかないの、結構な値段となる。

そこで劇団の送信機のご機嫌を直すべく、まずは土曜日、全員で様々な角度から受信状況をチェックしたが…ダメ。

この日の稽古では昼夜ともに後半部分を徹底的に行い、稽古自体はそれなりの成果は得たけれど、家に帰っても、頭の中は「音声ガイド」の事はかり…。

「今回もレンタルするしかないか…。」と半ば諦め、予算繰りをしながら風呂に入っていると、先日、元劇団員の竹本和弘にこの件を相談した事を思い出す。

彼曰く「周波数がずれてきているのかもしれないですよ。」と。

「そっかあ〜。」となった私は、早速その日の夜、電子機器にはまるで疎いけれど機械の上蓋を開け、分からないながらも、一か八かそれらしきモノを調整しまくって、本日、再びチェックしたら、おお!

とても感度よく聞こえてきた!これにはラジオのチェックをしていたみんなも大喜び。

「これで今回も音声ガイドが出来る!」と気を良くしたところで、今日の昼の部は、前半部分を徹底的に行い、夜、この座組初となる通し稽古を行うと…

(本番通りに通して行く稽古の事)上演時間が前回の赤坂公演の時よりも10分以上伸びている…シーンを追加したわけじゃないのに、10分以上も伸びるなんてのは異常事態だ。

恐らく皆さんが芝居に慣れてしまい、余裕が出来てきたからなのか?ちょっとずつ余計な間をとり、タップリと演じてしまったがために、こんなにも間延びした芝居となってしまったのだと思う。

こりゃーなんとかせにゃいかん!これではお客様が完全に居眠りしてしまうわ。次回の稽古では、その間延び芝居を、徹底的に修正しようと思ったのでした。